

洲崎寺

牟礼にある洲崎寺は、真言宗を開いた僧侶空海（774-835）が9世紀初頭に創建したとされる寺院である。この寺は、平氏と源氏の大きな争いである、屋島の戦い（1185年）で最高潮に達した源平合戦（1180年～1185年）で役割を果たした。

戦いの最中、負傷した源氏の兵士は須崎寺に送られた。洲崎寺はこの戦いで大きな被害を受け、その後も何度も再建・破壊を繰り返した。現在の建物は1699年に建てられたものである。

洲崎寺は、有名な四国遍路の八十八ヶ所の一つではないが、公式な「番外札所」として登録されている。京都の造園家・藤井稔氏が設計し、2013年に完成した枯山水庭園は、屋島の戦いのランドマークを俯瞰するように配置されている。2つの大きな岩と苔の集合体は、それぞれ屋島の台地と五剣山を表している。また、平家が船を隠して源氏の攻撃を待っていた湾など、この地域には人里離れた湾が多いことを示すために、それぞれの形が丁寧に整えられている。